

フランス語学フランス文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
フランス文学概論Ⅰ	フランス文学史(近現代)	2	今井 勉	4	水	4	1
フランス語学概論Ⅰ	言語学の誕生から今日まで	2	阿部 宏	4	月	5	2
フランス文学基礎講読Ⅰ	短編小説を読む	2	今井 勉	3	水	4	3
フランス語学基礎講読	フランスの雑誌を読む	2	阿部 宏	3	月	5	4
フランス文学各論Ⅰ	フランス文学批評史	2	今井 勉	5	木	2	5
フランス文学各論Ⅱ	ランボーと近代抒情性の研究	2	深井 陽介	6	月	4	6
フランス文学各論Ⅲ	フランス語圏文学研究入門	2	廣松 勲	集中(6)			7
フランス文学演習Ⅰ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	5	水	2	8
フランス文学演習Ⅱ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	6	水	2	10
フランス語学演習Ⅰ	フランス語意味論Ⅰ	2	阿部 宏	5	火	3	12
フランス語学演習Ⅱ	フランス語意味論Ⅱ	2	阿部 宏	6	火	3	13

科目名：フランス文学概論 I / French Literature (General Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LB43402, **科目ナンバリング：**LHM-LIT208J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス文学史 (近現代)

2. Course Title (授業題目)：

History of french modern literature

3. 授業の目的と概要：

人間論の基本的な教養として、フランス文学史の知識は有効です。この授業では、18 世紀後半から 19 世紀末までのフランス文学史上重要な作品を、毎回一篇程度取り上げて、テキスト読解を試みます。具体的には、ルソー、コンスタン、ユゴー、スタンダール、バルザック、フローベール、ボードレール、ランボー、マラルメ、ゾラなどの作品について、当時の歴史的・文化的な背景を絡めながら、代表的なテキストを取り上げて、解説を加えていきます。

4. 学習の到達目標：

フランス文学史を通覧しながら、フランス文学の傑作に触れる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う作家・作品および進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

第 1 回 フランス文学史の方法に関する概説

第 2 回 ルソー『告白』『孤独な散歩者の夢想』

第 3 回 コンスタン『アドルフ』

第 4 回 ユゴー『エルナニ』

第 5 回 スタンダール『赤と黒』

第 6 回 バルザック『ゴリオ爺さん』

第 7 回 フローベール『ボヴァリー夫人』

第 8 回 フローベール『感情教育』

第 9 回 ボードレール『悪の華』『パリの憂鬱』

第 10 回 ランボー『地獄の季節』

第 12 回 マラルメ『詩集』

第 13 回 ゾラ『居酒屋』

第 14 回 ヴァレリー『テスト氏との一夜』

第 15 回 まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

出席 20% + 筆記試験 80%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。参考書としては『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房、2002 年）を挙げておきます。

8. 授業時間外学習：

毎回、次の授業で扱うプリントを配付しますので、あらかじめよく読んで、授業に臨んでください。

9. その他：

連絡先： tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス語学概論 I / French Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：阿部 宏（教授）

講義コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-LIT210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語学の誕生から今日まで

2. Course Title (授業題目)：

From the birth of linguistics to today

3. 授業の目的と概要：

- ・言語研究の歴史についてフランス語のテキストにもとづいて解説する.
- ・言語研究の最近の成果を概説する.
- ・フランス語の論文の読解に慣れる.

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語学の基礎知識が身につく.
- ・フランス語の論説文が読めるようになる.
- ・フランス語の中級文法をマスターできる.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 比較文法 (1)
3. 比較文法 (2)
4. ソシュール (1)
5. ソシュール (2)
6. 音韻論 (1)
7. 構造主義 (2)
8. アメリカ構造主義
9. 生成変形文法
10. 認知意味論
11. 文法化 (1)
12. 文法化 (2)
13. 主観性 (1)
14. 主観性 (2)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%, 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

プリント使用.

参考書：阿部宏 (2015)『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会.

他にも、関連図書を適宜推薦します.

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス文学基礎講読Ⅰ／ French Literature (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：今井 勉（教授）

講義コード：LB33404, 科目ナンバリング：LHM-LIT223J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

短編小説を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading of french short stories

3. 授業の目的と概要：

基礎文法を確認しながら、フランス文学の原典に親しみます。この授業では、19 世紀末に活躍した作家マルセル・シュオブ (1867-1905) の作品を読みます。

4. 学習の到達目標：

フランス文学の原典を読む基礎的な作法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う予定の作品・進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

第1回 導入。マルセル・シュオブについて。

第2回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (1)

第3回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (2)

第4回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (3)

第5回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (4)

第6回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (1)

第7回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (2)

第8回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (3)

第9回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (4)

第10回 『黄金仮面の王』より「大地炎上」の読解 (1)

第11回 『黄金仮面の王』より「大地炎上」の読解 (2)

第12回 『黄金仮面の王』より「ミイラ造りの女」の読解 (1)

第13回 『黄金仮面の王』より「ミイラ造りの女」の読解 (2)

第14回 『黄金仮面の王』より「ペスト」の読解 (1)

第15回 『黄金仮面の王』より「ペスト」の読解 (2) および筆記試験

6. 成績評価方法：

毎回の予習に基づく授業参加状況 50%＋筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

コピーを配付します

8. 授業時間外学習：

毎回予習をして授業に臨むこと

9. その他：

連絡先： tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス語学基礎講読／ French Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LB31505, **科目ナンバリング：**LHM-LIT225J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランスの雑誌を読む

2. Course Title (授業題目)：

French magazine reading comprehension

3. 授業の目的と概要：

フランス語で書かれた平易な雑誌記事やガイドブックを題材に、初級文法・基礎的語彙の復習、中級文法の学習、文章読解の練習を行います。また、発音のわかりづらい点（発音記号の理解、語末音の発音の有無、複母音字、鼻母音、リエゾンなど）、文法のわかりづらい点（部分冠詞、名詞の性、中性代名詞、複合過去と半過去との違い、単純過去、条件法、接続法など）、フランスと英語や日本語との違い、フランス語の語源とフランス語史などについて解説します。仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても紹介します。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の雑誌やガイドブックが読めるようになる。
- ・フランス語の中級文法がわかるようになる。
- ・仏々辞典、仏英辞典、文法事典の使い方をマスターする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 辞典、文法事典、参考書の紹介
3. 雑誌記事・日本紹介（1）
4. 雑誌記事・日本紹介（2）
5. 雑誌記事・日本紹介（3）
6. 雑誌記事・時事問題（1）
7. 雑誌記事・時事問題（2）
8. 雑誌記事・時事問題（3）
9. ガイドブック・大学案内（1）
10. ガイドブック・大学案内（2）
11. ガイドブック・大学案内（3）
12. ガイドブック・旅行案内（1）
13. ガイドブック・旅行案内（2）
14. ガイドブック・旅行案内（3）
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%. 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。参考書については、教室で現物をお見せして、適宜推薦します。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス文学各論 I / French Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LB54201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス文学批評史

2. Course Title (授業題目)：

History of french criticism

3. 授業の目的と概要：

19 世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和政』(1983)を主要参考文献として、19 世紀後半から 20 世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。

4. 学習の到達目標：

フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う節・進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

1. 導入。コンパニョン『文学の第三共和政』第 1 部「ギュスターヴ・ランソン 人と作品」の第 27 節から第 30 節についての解説。

2. 同書第 2 部「文学とは何か」より (1) 読書

3. 同 (2) 図書館

4. 同 (3) 愛書家

5. 同 (4) 偶像崇拜

6. 同 (4) 読書あるいは人生

7. 同 (6) インスピレーション

8. 同 (7) ヴィジョン

9. 同 (8) ブルースト『失われた時を求めて』

10. 同 (9) フローベール『現代のフランス』

11. 同 (10) 文学史を少々

12. 同 (11) テーヌ

13. 同 (12) 反動

14. 同 (13) フローベール、テーヌ、ブルースト

15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。主要参考文献は以下の通り。アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983) [邦訳なし]、『理論の魔』(1998) [邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)]、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016) [邦訳なし]。

8. 授業時間外学習：

毎回、引用文の訳を担当していただく場合がありますので、ご準備ください。

9. その他：

連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス文学各論Ⅱ／ French Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：深井 陽介（兼務教員）

講義コード：LB61401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ランボーと近代抒情性の研究

2. Course Title (授業題目)：

ランボーと近代抒情性の研究

3. 授業の目的と概要：

この授業では、フランス 19 世紀詩人アルチュール・ランボーに焦点をあてて、韻文作品・散文作品を読解し、韻律・文体・テーマ・文学と社会などの様々な観点から分析していきます。また、ランボー以前の作家（特に 19 世紀前半のロマン派やボードレールなど）との比較を通して、近代詩における「主体」と抒情性の問題について考えてみたいと思います。

4. 学習の到達目標：

19 世紀フランス文学の全体像がわかる。

近代詩の特徴が理解できる。

フランス文学の読解方法をマスターしており、様々な観点から分析できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 授業の進め方とテキスト分析の方法。詩人ランボーとその作品に関する概説。

第 2 回 ドゥエ詩帖 「悪」の読解・分析

第 3 回 ドゥエ詩帖 「水から立ち現れるヴィーナス」の読解・分析

第 4 回 「花について詩人に語られたこと」の読解

第 5 回 「花について詩人に語られたこと」の分析

第 6 回 後期韻文詩「黄金時代」の読解

第 7 回 後期韻文詩「黄金時代」の分析

第 8 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して①

第 9 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して②

第 10 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して③

第 11 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して④

第 12 回 イリュミナシオン「王位」の読解・分析

第 13 回 イリュミナシオン「夜明け」の読解・分析

第 14 回 イリュミナシオン「民主主義」の読解分析

第 15 回 イリュミナシオン「セール」の読解・分析

6. 成績評価方法：

授業への参加度 50%（グループワークや分析の際に積極的に参加し、発言しているかを評価します）

レポート 50%（授業で学んだ方法を使って、文学作品を分析しレポートを提出して頂き、それを論理性・独創性などの観点から評価します）

7. 教科書および参考書：

必要なテキストは授業初回に配布しますので、受講を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。

また参考書に関しては必要に応じてその都度紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業で扱う文学作品は比較的難解なものが多く、扱うものを毎回入念に読んで予習してきてください。また、詩作品は凝縮されたテキストですので、複数のメッセージが隠されています。ただ読むだけではなく、そこから客観的に何が論じられるのかまとめてきてください。

9. その他：

授業への積極的な参加を求めます。

科目名：フランス文学各論Ⅲ／ French Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：廣松 勲(非常勤講師)

講義コード：LB98814, **科目ナンバリング：**LHM-LIT314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語圏文学研究入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Literatures of French-Speaking World

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、アメリカ大陸の「フランス語圏(フランコフォニー)」を中心対象として、フランス語圏文学の共通性と差異を具体的なテキスト分析に基づいて検討することにある。まずは、「フランコフォニー」が世界5大陸に広がった歴史的・社会文化的背景を検討し、各地域(特にカリブ海域諸島・マルティニク島とカナダ・ケベック州)の言語状況を紹介する。その上で、フランス語圏文学を研究する上での前提知識を扱ったエッセイ、各地域の代表的な作家たちの小説・詩などを講読し、参加者で討論を行う。

4. 学習の到達目標：

- ①フランス語圏の世界規模の広がりについて、その歴史的・社会文化的要因を説明できる。
- ②フランス語圏文学を研究する際の基本的条件を理解できる。
- ③上記に基づいて、フランス語圏文学のテキストを精緻に読み込むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：フランス語圏(フランコフォニー)とは何か？：歴史と地理
2. カリブ海域諸島・マルティニク島のフランス語圏：歴史、社会、言語状況
3. カナダ・ケベック州のフランス語圏：歴史、社会、言語状況
4. フランス語圏文学研究の基礎的条件
5. 原典講読①：Jean-Marc Moura, Littératures francophones et théorie postcoloniale (1999)
6. 原典講読②：Jean-Marc Moura, Littératures francophones et théorie postcoloniale (1999)
7. カリブ海域諸島・マルティニク島の文学と思想
8. 原典講読①：Aimé Césaire, Cahier d'un retour au pays natal (1939)
9. 原典講読②：Édouard Glissant, La Lézarde (1955)
10. 原典講読③：Patrick Chamoiseau, Solibo Magnifique (1988)
11. カナダ・ケベック州の文学と思想
12. 原典講読①：Jacques Godbout, Salut Galarneau ! (1967)
13. 原典講読②：Émile Ollivier, Passages (1991)
14. 原典講読③：Dany Laferrière, Je suis un écrivain japonais (2008)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 40%＋最終レポート 60%

最終レポートでは自ら選んだフランス語圏文学(アメリカ大陸以外でも可)の作品について、個別の作品分析をしてもらいます。

7. 教科書および参考書：

参考書：

平野千香子著『フランス植民地主義の歴史』人文書院, 2002年。

鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語』関西学院大学出版会, 2012年。

小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』明石書店, 2009年。

コーラル・アン・ハウエルズ他著『ケンブリッジ版 カナダ文学史』(日本カナダ学会他編訳), 彩流社, 2016年。

国本伊代編著『カリブ海世界を知るための70章』明石書店, 2017年。

中村隆之著『フランス語圏カリブ海文学小史』風響社, 2012年。

8. 授業時間外学習：

最終レポート執筆に向けて、授業内で扱った作品のみならず、事前にフランス語圏文学(アメリカ大陸以外も含む)にはどのような作家がおり、どのような作品が書かれているのかを調査して欲しい。

9. その他：

「授業内容・方法と進度予定」については、受講人数等の諸事情により変更する場合があります。

科目名：フランス文学演習 I / French Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LB53205, **科目ナンバリング：**LHM-LIT331J, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Langue et culture de la France contemporaine

2. Course Title (授業題目)：

Langue et culture de la France contemporaine

3. 授業の目的と概要：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.

Une lecture de textes littéraires pourra être proposée, en fonction des centres d'intérêt des étudiants.

4. 学習の到達目標：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :

- la lecture de divers types de textes
- un entraînement à la compréhension de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Expression orale et écrite

2) Expression orale et écrite

3) Expression orale et écrite

4) Expression orale et écrite

5) Expression orale et écrite

6) Expression orale et écrite

7) Expression orale et écrite

8) Expression orale et écrite

9) Expression orale et écrite

10) Expression orale et écrite

11) Expression orale et écrite

12) Expression orale et écrite

13) Expression orale et écrite

14) Expression orale et écrite

15) Projection de film et discussion

6. 成績評価方法：

Une présence à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60 % dans l'évaluation globale.

L'évaluation portera aussi sur des textes brefs, rédigés régulièrement pendant le semestre.

7. 教科書および参考書：

A. Berthet, E. Daill, C. Hugot, V. M. Kizirian, M. Waendendries, Alter ego +, Paris, Éditions Hachette Français langue étrangère, 2012.

Des photocopies seront fournies pour les premiers cours.

8. 授業時間外学習：

Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec le cours.

9. その他：

科目名：フランス文学演習Ⅱ／ French Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LB63204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT332J, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Langue et culture de la France contemporaine

2. Course Title (授業題目)：

Langue et culture de la France contemporaine

3. 授業の目的と概要：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.

Une lecture de textes littéraires pourra être proposée, en fonction des centres d'intérêt des étudiants.

4. 学習の到達目標：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :

- la lecture de divers types de textes
- un entraînement à la compréhension de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Expression orale et écrite

2) Expression orale et écrite

3) Expression orale et écrite

4) Expression orale et écrite

5) Expression orale et écrite

6) Expression orale et écrite

7) Expression orale et écrite

8) Expression orale et écrite

9) Expression orale et écrite

10) Expression orale et écrite

11) Expression orale et écrite

12) Expression orale et écrite

13) Expression orale et écrite

14) Expression orale et écrite

15) Projection de film et discussion

6. 成績評価方法：

Une présence à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60 % dans l'évaluation globale.

L'évaluation portera aussi sur des textes brefs, rédigés régulièrement pendant le semestre.

7. 教科書および参考書：

A. Berthet, E. Daill, C. Hugot, V. M. Kizirian, M. Waendendries, Alter ego +, Paris, Éditions Hachette Français langue étrangère, 2012.

Des photocopies seront fournies pour les premiers cours.

8. 授業時間外学習：

Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec le cours.

9. その他：

科目名：フランス語学演習 I / French Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LB52305, **科目ナンバリング：**LHM-LIT335J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語意味論 I

2. Course Title (授業題目)：

French Semantics I

3. 授業の目的と概要：

- ・19 世紀のフランス文学作品のテキストを題材に、フランス語の言語的現象を分析し、同時に文化論・文学論・歴史学的な考察を行います。
- ・フランス語の諸現象について、文法化、認知意味論、主観性などの観点から解説します。
- ・実例に基づいた言語研究、およびフランス語・英語・日本語間の対照研究の方法論について考察します。
- ・仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても、具体的に説明します。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の読解力が高まる。
- ・フランス語の語彙と文法の仕組みがわかるようになる。
- ・語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 仏々辞典等の使用法
3. 文法事典等の使用法
4. 意味論概説 (1)
5. 意味論概説 (2)
6. 意味論概説 (3)
7. テキスト読解 (1)
8. テキスト読解 (2)
9. テキスト読解 (3)
10. テキスト読解 (4)
11. テキスト読解 (4)
12. テキスト読解 (5)
13. テキスト読解 (6)
14. テキスト読解 (7)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%, 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

参考書：阿部宏 (2015) 『言葉に心の声を聞く』 東北大学出版会。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス語学演習Ⅱ／ French Linguistics (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LB62304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT336J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語意味論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

French semanticsⅡ

3. 授業の目的と概要：

- ・フランス語の語彙，文法，歴史を扱った論文を読みながら，文法構造，歴史，語彙など，フランス語の特徴について総合的に解説し，考察します。また，適宜，英語，日本語などとの対照的考察を行います。
- ・語学研究の方法論を解説するとともに，フランス語と日本語の類似点と相違点について考察します。
- ・LEXIS などの仏々辞典，『朝倉・新フランス文法事典』，Le Bon Usage, Dupre などの文法事典，Robert-Collins などの仏英辞典，Benac などの類義語辞典，Le Robert historique などの語源辞典の利用法について，具体例にもとづいて解説します。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の読解力が高まる。
- ・フランス語，英語，日本語などの言葉の違いを超えた共通性に気づく。
- ・語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 意味論関連文献読解 (1)
3. 意味論関連文献読解 (2)
4. 意味論関連文献読解 (3)
5. 意味論関連文献読解 (4)
6. 意味論関連文献読解 (5)
7. 主観性関連文献読解 (1)
8. 主観性関連文献読解 (2)
9. 主観性関連文献読解 (3)
10. 主観性関連文献読解 (4)
11. 語用論関連文献読解 (1)
12. 語用論関連文献読解 (2)
13. 語用論関連文献読解 (3)
14. 語用論関連文献読解 (4)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 50% + 出席 50%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。

参考書：阿部宏 (2015)『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので，関連資料を調査し，各自考えていただきます

9. その他：